

皮脂は水には溶け難いが、油にはよく溶けるので、このクリームを塗れば、皮脂はこれに溶け、しかもこの種のクリームは水とも乳化し易いので、皮膚面の水分とも乳化されて、これをふき取ると、皮脂や水の除かれると共に、アカも容易に除去されて清浄になる。使用法も極めて軽便であり、使用後も、適度の油分を皮膚上に止めて、皮膚を柔軟にする効があり、荒れ性、脂性の両者に適当である。化粧前の洗顔料として、就寝前の洗顔料として適当であり、旅行時には便利なので近年次第に普及して来ている。

クレンジングクリームには無水性のもの、含水性のもの2種がある。

### 1. 無水性クレンジングクリーム

これは油と蠟の混合物である。これは常温では固体であるが、皮膚に用いた時には速かに液化してノビがよいこと、だが余りに粘度が小さくて皮膚を伝って流れる様であってはならないこと、少量の水分により容易に乳化されること、使用後皮膚が滑らかさと潤いがなければならないが、油性を残さないことが要請される。商品としては気温の変化などを充分に考えに入れなければならない。

油としては、流動パラフィン、固形蠟としてはパラフィン、白蠟などが用いられ、ワセリンはその中間として用いられる。これらの鉱物油は皮膚への浸透性が無き過ぎるので、使用後皮膚に滑らかさと潤いを与えるためにセタノール、鯨蠟などが添加される。また植物性油を少し加えてもよい。が浸透性を多く与えることは、この種のクリームには適当でない。

(1) 流動パラフィン	50%	ワセリン	20%
パラフィン	30 "	香料	適宜
(2) 流動パラフィン	65%	白色ワセリン	12%
パラフィン	18 "	セタノール	1 "
鯨蠟	4 "	香料	適宜
(3) 流動パラフィン	55%	白蠟	15%
パラフィン	20 "	香料	1~1.5 "
ワセリン	10 "		

これらの製品は脂性のアカの除去には適するが、水溶性の(汗の)アカの除去には適さない。

(4) ロート油	13%	油流動パラフィン	55%
ワセリン	20 "	パラフィン	12 "

ロート油はヒマシ油あるいはオリーブ油から製した淡色のものを用いる。これは洗浄力も強く、水と乳化し易い特長をもっている。

(5) ステアリン酸	5%	ワセリン	36%
トリエタノールアミン			
セタノール	5 "	パラフィン	10 "
流動パラフィン	44 "	香料	適宜

これも水とよく乳化する。

### 2. 含水性クレンジングクリーム

これは油分の多いコールドクリーム型のクリームである。多く油中水型乳剤である。

現在のクレンジングクリームはこの型のものが多い。

油としては浸透性の少い流動パラフィンを用いるがよいといわれるが、必ずしもそうでもない。植物油を配合することもある。これは普通のコールドクリームよりは幾分柔らかく目にする。

その製法に関しては、後文コールドクリームの項を参照されたい。

(1) 白蠟	8%	鯨蠟	12%
流動パラフィン	50 "	ホウ砂	1 "
水	29 "	香料	適宜
(2) 白蠟	4.3%	パラフィン	6.0%
白色ワセリン	11.4 "	流動パラフィン	43.5 "
ホウ砂	0.3 "	水	34.5 "
香料	適宜		
(3) 白蠟	8%	パラフィン	7%
セタノール	1 "	流動パラフィン	49 "
ホウ砂	0.4 "	水	34.6 "
(4) 1. ロート油	10%	3. 白蠟	7%
2. 鯨蠟	8 "	4. ラノリン吸収基剤	20 "